

ウェル・ビーイングなオフィス空間の提案

住居環境科 岩本 智美

A proposal for office remodeling for Well-being

Satomi IWAMOTO

概要 実務に基づいた設計や施工のプロセスを学ぶため、企業より依頼を受けたオフィス改修工事へ参画し、2024年度の総合制作「オフィス改装プロジェクト」としてウェル・ビーイングなオフィス空間を提案した事例について報告する。専門家からのアドバイスを受けながら事前調査から改修案の作成、プレゼンテーション、そしてオフィスに設置するブックシェルフの製作を行った。

1. はじめに

2024年3月、松江市内の企業よりオフィス改装についての相談を受けた設計事務所から、島根職業能力開発短期大学校（以下、「島根短大」という）の学生と取組を行いたいとの依頼を頂いた。設計事務所や施工会社の専門家とともに改装工事の初めから完成までに携わる事ができ、学生にとっては専門的な技術や知識を身につけることができる有意義な機会となることから、2024年度の総合制作として取組むことにした。

本報は、このオフィス改装工事へ参画し、「オフィス改装プロジェクト」としてウェル・ビーイングなオフィス空間を提案、実現した事例について報告する。

2. ウェル・ビーイングとは

ウェル・ビーイングとは、1946年に採択された世界保健機関（WHO）憲章で初めて登場した言葉で、「人が単に身体的に健康だけでなく、精神的にも社会的にも満たされている状態」のことを意味する。近年は、日本でもウェル・ビーイングの概念が盛んに用いられるようになってきている。

建築におけるウェル・ビーイングとは、建築物や建築空間が利用者の身体や心の健康などに配慮されていることである。オフィス空間においてもこの概

念に基づいた働きやすい環境づくりが注目されており、働く人のストレスを軽減し、心身ともに満たされた状態で働き続けられる空間を作ることが、働きやすさや仕事へのやりがい、そして職場への定着、仕事の効率アップなどに大きく影響すると考えられる。このことは、働く人にとってだけでなく、企業にとっても大きなメリットとなる。

本プロジェクトでは、このウェル・ビーイングの概念を用いて計画していく。

3. オフィス改装プロジェクト

3.1. プロジェクトの概要

改修を行うオフィスは、環境機器専門メーカーの株式会社ミライエ（以下、「依頼主」という）の本社事務所で、島根県松江市の工業団地の一角にある二階建ての建物である。

「社内のオフィス家具製作（内装リニューアル）を学生と協働で出来ないか」という依頼を受け、打合せを重ねながら、協働者と共にオフィスの改装案の提案、オフィス家具の制作、事務所2階の改装を行なった。プロジェクトは、2024年5月から2025年3月までの10か月で実施した。

3.2. 協働者

本プロジェクトは、松江市の設計事務所と、同じく松江市の施工会社、そして島根短大の3者で実施

した。設計及び施工の専門家にアドバイスを頂きながら一緒に進めるもので、学生にとって実務を通して設計や施工のプロセスを学べる有意義な機会になった。

島根短大のある江津市と松江市は約 100km 離れており、頻繁に対面で打ち合わせ等を実施することが難しいため、WEB ミーティングやファイル共有サイトなどオンライン環境を活用して、打合せや情報共有、進捗確認を行った。

4. オフィスの改装案

4.1. 事前調査

5月~7月、事前調査として現地調査及びヒアリング、事例調査を実施した。現地調査では、建物の実測調査及び現況調査を行い(図1、2)、この結果をもとに現況図面を作成した。ヒアリングでは、オフィス改装にあたり社員の意見を確認し、動線・配線が悪い、デスクが狭い、閉塞感がある点が現状の問題点として挙げられ、また、収納がほしい、取材の時映えるオフィスにしたい、リラックスできる空間が欲しいなどの要望が出た。これらヒアリングで得られた意見は、KJ法を使ってグルーピングをし、情報の整理を行った(図3)。



図1 2階オフィスの様子



図2 実測調査

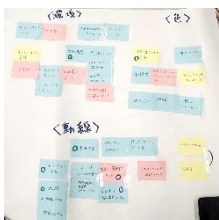


図3 ヒアリング結果の情報整理

続いて最新のオフィス事例について調査を行った。かつてオフィスは、労働者の健康や快適性はあまり考慮されていない単なる働く場所であったが、近年

は働きやすさや働きがいを提供し生産性向上を促す環境へと変化している。また、「ウェル・ビーイング」がトレンドワードとなっており、働く人の心身の健康状態が満たされるような空間が求められていることが分かった。

4.2. コンセプトの設定

「自分らしく働くことができるオープンなオフィス」をコンセプトとして設定した。居心地が良く心身ともに健康でいられるオフィス空間を目指すことにした。

4.3. 改装案の作成

4.3.1. ラフ案

6~7月、協働者の設計事務所および施工会社の方と打ち合わせを行いながら改装のラフ案を検討し、3案作成した。

案1は小上がりの休憩ステージを設け、休憩中の人と執務中の人との視線高さを変えることでリラックスできるよう意識した(図4)。案2は大きく配置換えを行うもので、現状2階にある3部署を1部署に変更して、空いたスペースを休憩や打ち合わせのためのスペースとした(図5)。また、案1、2とも壁面には会社ロゴとグリーンウォールを設けている。植物を取り入れることでリラックス効果が期待できることと、同時に要望にあった「取材時に映えるオフィス」を実現できる。案3は床の仕上げを部署ごとに色分けすることで空間をエリア分けすることを提案している(図6)。いずれの案にもグリーンや木材を取り入れており、殺風景なオフィスを明るく、リラックスでき、働きやすさが向上する空間になるよう配慮した。



図4 ラフ案1



図5 ラフ案2

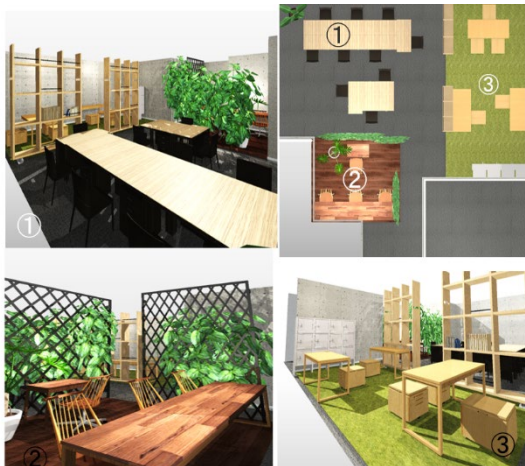


図6 ラフ案3

4.3.2. 最終案

3つのラフ案から良いところを集め、設計事務所の建築士が最終案としてまとめた(図8)。

既存の会議室の間仕切壁を撤去して、3部署のスペースを余裕をもって確保、新たにWEB会議や集中できるスペースとしてミーティングブースを設けた。入り口ドア付近には、行先を視認するための溜まりをつくった。対角線上には、開放感を与えられるように休憩や打合せ、コミュニケーションスペースとして利用できるフリースペースと、執務中とは異なる高さや座り方で気分の切り替えができる小上

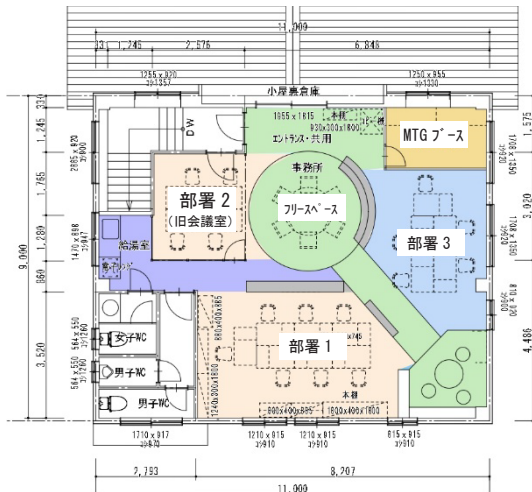


図8 2階改修 最終案(平面)

がりの休憩ステージを配置した。また、壁には会社のロゴ付きグリーンウォールを取り付けて、社員からの要望である映える空間を演出した。フリースペースから小上がりまではグリーンカーペットが敷かれ、これによりエリアを区切っている。2階中央にはドリンクコーナーを置くことで、仕切りを作るとともに、自然と人が集まるようなスペースを演出している。

4.3.3. 提案

7月下旬、現地にて最終案のプレゼンテーションを行い、コンセプトや改修案のポイント、カラーイメージ等を説明した。その際、依頼主から再度意見の聞き取りを行い、最終案の修正を行なった。

11月、依頼主より、再度社内で確認したところ「撤去予定であった会議室の壁はWEB会議で使用するため残したい」「部署1のスペースが狭いのを広げてほしい」との要望があり、再修正を行った。



図7 依頼主へのプレゼンテーション

4.3.4. 修正案

12月、修正案が決定した(図9)。会議室は既存のまま残し、小上がりの休憩ステージをフリースペース隣に移動した。また、グリーンウォールもフリースペースに移動した。図10にパースを示す。

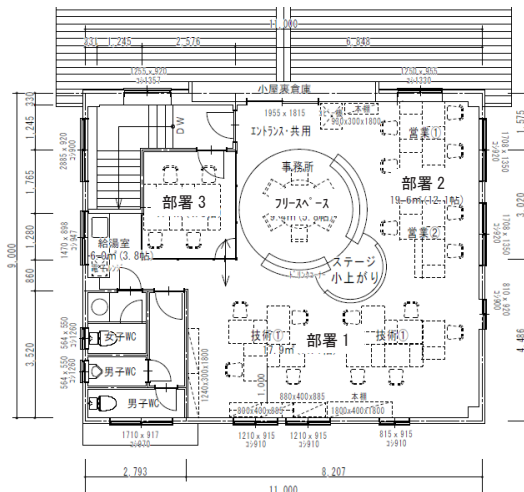


図9 2階改修 修正案(平面)



図 10 2階改修 修正案 (パース)

5. ブックシェルフの製作

5.1. デザイン作成

10月、改修平面がおおよそかたまり、島根短大では、家具工事のうち円弧型ブックシェルフの製作を担当することが決まった。円弧型の形状とおおよそのサイズが平面で決まっており、そこからヒアリングを実施して、使い方や要望を踏まえデザイン案を作成した。なお、12月に最終決定した平面修正案では、ブックシェルフについての修正はなかった。

図 11 に示した最終案は、ズレを活かしたシンプルかつスタイリッシュなデザインとし、側面には花ブロックや木タイルを取り付けることで、オフィスがより華やかな雰囲気になるように設計した。また、大きさや色がばらばらな書類を隠したいという要望があったため、収納式のマガジンラックを一部に取り付けた。



図 11 ブックシェルフ デザイン案パース

5.2. 試作品の製作

まず模型を作り部材同士の取り合いや納まりを確認することで、図面だけではわからない部分の確認ができた。

次に、施工図の作成練習と、加工順番や留付け方など施工方法の検討を行うために、本製品より横幅を約 3/5 に縮小した試作品を製作した (図 12)。材料は軽量で反りにくいシナランバーコアを使用した。

円弧状の天板は、当初ジグソー等の木工機械で加工予定だったが、厚さ 24 mm の天板を正確に円弧状に加工することが難しく、仕上げにも時間がかかることから、レーザー加工機を使用することにした。しかしレーザー加工機の加工範囲は最大 1200 mm で、天板を 1 枚の板から切り出すことができず 2 分割して接合した (図 13)。



図 12 試作品

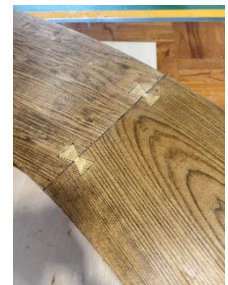


図 13 天板接合部

5.3. 棚の問題点と改善

試作品の製作をすることで、施工上の問題点が出た。主なものは次の 3 つである。

①組み立て順を間違えて施工が困難な箇所があった。これについては、改めて組み立て順を確認し、それぞれの段階で必要な加工について整理し手順書を作成した。

②天板と底板に、面をそろえて背板を取り付けることが難しく、図 14 に示す通り隙間が生じた。このためデザインも活かしつつ施工しやすくきれいに仕上がる納まりの検討を行った。背板は天板より少し内に入れる天板勝ちにし、さらに天板に溝を切って納めることにした (図 15)。その他にも面をそろえて仕上げる箇所の見直しを行った。

③各ボックスの仕切は 2 枚の合板を一定の角度でビス留めして組み立てていたため (図 16)、仕上げ面にビスが見えること、また 2 枚の板に生じた隙間が目立ってしまった (図 17)。これについては、レーザー

加工機で2枚の仕切り板にはめ込む板を作成し(図18)、留付けをビスではなくボンド接着に変更した。また、正面から隙間が見えないよう木口テープを貼って仕上げた(図19)。



図14 背板に生じた隙間と面そろえの仕上げ



図15 改善した背板の取付と天板勝ちの仕上げ



図16 仕切り(上面)



図17 仕切り(側面)



図18 はめ込み板



図19 改善後の仕切り(上面と側面)

5.4. 本製作

1~2月、前述した以外の問題点と改善策を検討して本製作に取り掛かった。天板のジョイントは、治具で固定し紐で締めつけて圧着していたが(図20)、

試作品よりもサイズが大きいことと、レーザー加工機の加工可能サイズに合わせ3分割しての製作になったため紐での圧着が難しく、ボルトで接合することにした(図21)。

塗装は、木目を生かすためワトコオイルを塗り、その上から保護のためウレタン塗装を行った。完成品を図22に示す。



図20 治具と紐による圧着

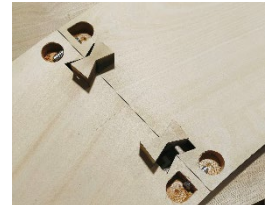


図21 ボルト接合



図22 完成したブックシェルフ

6. グリーンウォールと会社ロゴ

2階フリースペースに設置するグリーンウォールの検討提案を行った。使用するフェイクグリーンや取り付ける会社ロゴの位置・サイズの提案用資料を作成した(図23、24)。また、依頼主との打合せにおいて、1階の玄関部分にもグリーンウォール設置の要望が出たため、その提案資料もあわせて作成した(図25)。

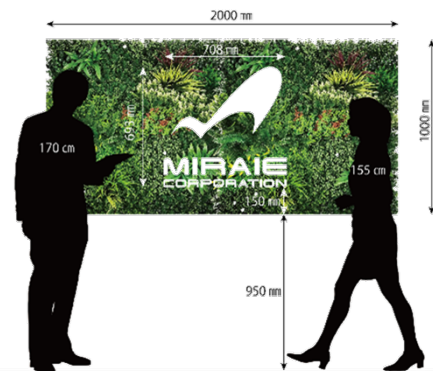


図23 グリーンウォール及びロゴのサイズイメージ



図 24 2階フリースペースのパース



図 27 完成した2階フリースペース

1階グリーンウォール



図 25 1階玄関グリーンウォールの提案資料



図 28 完成した1階玄関グリーンウォール

7. 現地作業

3月、完成したブックシェルフを現地へ搬入し設置した。階段を使って2階まで搬入することを考慮して上段と下段に分けて製作していたため、現地で最終組み立てを行った。木工用ボンドを塗布してクランプで上段と下段を圧着させ、ビスで固定した(図26)。

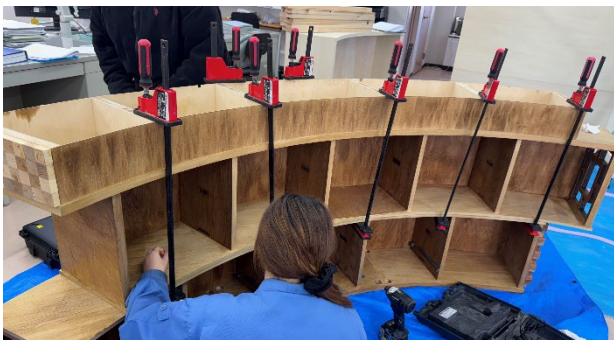


図 26 現地での最終組み立て作業

ブックシェルフ完成後は、現場監督の指示のもと、1階グリーンウォール用のフェイクグリーンの準備や、円形にカーペットをカットする準備など現場の手伝いを行った。図27、28に完成写真を示す。

8. おわりに

今回、ウェル・ビーイングなオフィス空間として、フリースペースやグリーンウォールを設けた改修案を提案し、また、そこに設置するブックシェルフの製作を行った。総合制作の目的である、学生が実務を通して設計や施工のプロセスを学び、専門的な知識や技術を身に付けることは、概ね達成できた。また、この制作の取組は「江津未来人材ものづくり研究発表会」において高校生や一般来場者へ報告し、内容はもちろんプレゼンテーション技術も評価していただいた。

最後に、プロジェクトを通してご協力いただいたコクーン設計舎の坪倉様、株式会社コタニの金森様に感謝申し上げます。また、このように貴重な機会を与えて下さった株式会社ミライエの皆様にも心から感謝申し上げます。

著者 E-Mail Iwamoto.Satomi@jeed.go.jp